



「ゲンゴロウ郷の米」誕生の歴史

2016 年、龍谷大学政策学部と京丹後市大宮町三重・森本地域との連携活動の一環として行っている「水田の生物調査」において、絶滅危惧種に指定されているゲンゴロウを 2 種類発見しました。綺麗な水でしか暮らすことができない本ゲンゴロウ類は、お米の安全性を保証し、水田の生物多様性を象徴する存在です。そこで、この地域の生物多様性を後世へ繋げたいという想いから「ゲンゴロウ郷の米」と名づけました。

「ゲンゴロウ郷の米」（生物多様性米）の基準

- ①品種はコシヒカリとする
- ②ひよせを作る
- ③ネオニコチノイド系農薬を使用しない
- ④中干しの時期を遅くする（オタマジャクシがカエルになる時期まで待つ）
- ⑤水田・ひよせで中干しの前後に生き物調査を実施する

受賞歴

- ・ H30 丹後産コシヒカリ良食味米共励会 審査委員長賞（食味審査の部）
- ・ H29 近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール近畿農政局長賞（有機農業・環境保全型農業部門）
- ・ H28 京都府農地・水・環境保全向上対策協議会優良組織表彰（環境保全型農業部門）京都府知事賞



ひよせでの生き物調査の様子